



井上 将 議員

宿毛新港の利活用に ついて

問 物流拠点としての活用について問う。

答 四国横断自動車道との連動による物流拠点の形成については、極めて重要な要素であると考えている。宿毛新港への流通拠点整備は、様々な機会を捉えて国へ要望を行ってきた。宿毛新港が地域経済の活性化に貢献するハブ港としての役割を担えるよう港湾管理者である県と具体的な施策について協議、議論を重ねていきたい。

問 広域交通インフラとしての形成について問う。

答 四国8の字ネットワークが全線開通したら、九州南部方面への新たな物流ルートとしての優位性が高まると考える。九州へのフェリー航路や

新たなフェリー航路が新設される可能性が大いに高まると期待をしている。今後も四国横断自動車道の整備状況を注視しながら、その開通をきっかけとして、宿毛新港が広域交通インフラの要衝となるよう新たな航路開設の可能性を検討していきたい。

問 本市の観光資源である釣りを生かし、釣り文化振興モデル港としての指定を受けてはどうか。

答 釣り文化振興モデル港の取り組みは、地域の特性を生かしながら、観光振興と地域の活性化を同時に推進でき、継続性と実現性のある取り組みだと受け止めている。指定要件も本市において十分応えられる可能性を感じており、条件など照らし合わせながら港湾管理者とも連携を図り、地域に根差した取り組みとして検討を進めていく。

問 船舶給水は本市の歳入につながる。現状と施設整備の考えについて問う。

答 今後、クルーズ船などの入港が増える可能性も十分高いと考えているため、しっか

りと対応していく。供給する船舶への濁りの混入などを発生させないために供給速度を抑えて船舶への供給を行っているため、供給時間に余裕がない場合の対応が課題であるが、現状の受入れ実績での対応は可能である。船舶給水の受入れ数を増やすための新たな施設整備の調整については、港湾管理者とも協議を深めていきたい。

問 新港活用の将来的な構想について市長に問う。

答 将来的には、宿毛新港を物流の拠点としてだけではなく、地域を牽引する複合的な玄関口として発展をさせていきたい。市民、関係機関、議員各位と知恵を出し合い協働することで、宿毛新港が地域の発展に大きく貢献をする活力のある港となるよう長期的に考えていきたい。目標としては、高規格道路のIC開通や一定区間がつながる時期を見据えて、そのとき一気に動けるように準備を進めていきたい。



寺田 公一 議員

希望ヶ丘の市道について

問 希望が丘市道の市役所入り口の三叉路については、実際に走ってみると非常に通行しにくい形状になっている。早急に形状変更する必要性を感じるが、宿毛市としての現状把握と対応について聞く。

答 質問の三叉路については、構造上の問題が顕著に表れてきていると認識しており、一部で危険な状況が発生していると、市としても認識している。構造的に補えるところがあれば、警察等とも相談しながら、この交差点の在り方について考えていきたい。

個人墓地の新設や 移設について

問 個人墓地の新設・移転について、許可が得にくい印象

があるが、法人等が墓地霊園を新設する場合の設置基準と個人墓地の設置に対する対応について聞く。

答 墓地霊園の設置については、墓地埋葬法に基づき、市の条例、規則により設置基準を定めており、公園、学校、病院等の公共施設からおおむね100メートル以上離れていること。建築基準法、地滑り防止法等で災害危険区域に指定されていないこと。鉄道、国道、または主要な県道からおおむね20メートル以上離れていることのほか、周辺の美観や隣接地の所有者の承諾等、公衆衛生上支障がないと認められることが必要だ。

個人墓地の新設については、墓地埋葬法の趣旨である墓地の管理、供養の永続性において脆弱であることから、原則認めていないが、山間部など人里離れた場所で、墓地設置場所から半径100メートル以内に空き家を含む人家が5件程度以内の自己所有地であること。半径100メートル以内の人家の同意が得られるといった設置に支障がない場合において、特別な事情がある場合として、例外的に設置や移設が認められることになっ